

第二号議案

平成15年度活動計画

はじめに

本会は、科学技術分野における計算機利用機関の担当部門が必要とする「コンピュータ・サイエンスに関する技術・情報の交換、及び問題解決のためのディスカッション」を行い、会員相互の利益を図ることを目的に活動を続けている。

数年来、SS研の活動目標として推進してきている「成果を目に見える形に」については、その主旨が活動の多くの場面に浸透し、定着化してきている。

平成15年度活動については、政府が推進しているe-Japan計画の重点テーマ（高速ネットワーク、教育へのIT活用、セキュリティ、e-サイエンス）を参考に、アンケートならびに平成14年度の活動状況等を踏まえ、より質の高い有意義な研究会活動を推進していきたい。

1.分科会

分科会は、3分科会（システム技術、研究教育環境、科学技術計算）と合同分科会については平成14年度の枠組みを継続し、それぞれの会合で技術動向・会員動向を見据えつつ、関心のあるテーマをタイムリーに取り上げ、会員間、会員・富士通間の情報交換、討議を中心に活動を行う。

区分	活動範囲
システム技術分科会	情報センターに関わるITソリューション
研究教育環境分科会	研究教育に関わるITソリューション
科学技術計算分科会	科学技術計算に関わるITソリューション
合同分科会	全ての分科会、WGに関わるITソリューション

1.1 システム技術分科会

(1) 活動方針

会員機関では、独立行政法人化や組織の統合再編などを控え、機関内のあらゆる情報基盤の運用主体としての責任が高まっている。組織全体のシステムの構築や運用において、独自に運用されていた複数のシステム間での連携や協働の在り方が模索されている。これらを背景に、システムインフラ、ネットワーク関連事項、システムの運用などに関連した事項についてタイムリーなテーマを取り上げ、情報提供と会員間の議論の場を提供し、現状の問題解決と将来の方向性を検討していく。

(2) 活動内容

第1回：「シングルサインオンと認証技術」

< 発表候補 >

- 1) 富士通報告(チュートリアル的話題) --- 富士通)セキュア統括部
- 2) 富士通報告(要素技術)
- 3) 事例1(セキュリティ運用の現状と今後の構想) --- 東京電機大
- 4) 事例2(指紋認証) --- 中部大) 梅崎先生

第2回：「大容量データのマネジメント(ストレージの運用管理)」

NW時代の統合ストレージマネージメントWG(平成14年度で終了)と要調整

< 発表候補 >

- ・ 事例候補 --- 北陸先端大、中京大、理研、天文台、富士通研(ペタバイト)

(3) 進め方

- ・ 開催回数： 年2回
- ・ 開催時期：
 - ・ 第1回会合： 7月31日(東京)
 - ・ 第2回会合： [合同分科会の分科会セッション]

1.2 研究教育環境分科会

(1) 活動方針

今年1月、定員割れで経営に行き詰まった大学が休校に追い込まれるというショッキングな記事が新聞に掲載された。「少子化」「大学全入時代(2009年)」「第三者評価制度の導入」等、大学を取り巻く環境の変化は厳しさを増している。この危機を好機と捉えた大学は生き残りをかけ様々な挑戦に取り組んでいる。その取り組みの一つにe-Learningがある。個性輝く大学を目指し、学生満足度を向上させようと積極的にe-Learningを取り入れ、成功した大学が出現し始めている。

本分科会では、「e-Learningは教育を変えるか？」をメインテーマに、e-Learningへの先進的な取り組みについて事例研究を行うとともに、e-LearningがLearningそのものとなり、教育と分かち難い存在となりうるのか議論を深め、その展望を探る。

(2) 活動内容

第1回：「e-Learningは教育を変えるか？ - 学生に選ばれるe-Learning - 」

e-Learningへの先進的な取り組みについて、事例研究を行う。

< 発表候補(案) >

- ・ 東北大学インターネット大学院 事例紹介
- ・ 熊本大学総合情報基盤センター 事例紹介
- ・ ITを使用した授業評価 事例紹介
- ・ 古今和歌集パラレルデータベースと公開システム
- ・ 命令セットアーキテクチャ 事例紹介
- 他 デモ

第2回：「e-Learningは教育を変えるか？ - e-LearningからLearningへ - 」

e-Learningの将来像を探り、Learningそのものになり得るのか議論を深める。

< 発表候補(案) >

- ・ e-Learningの将来<基調講演>
- ・ e-Learning向け動画コンテンツ総合・検索技術紹介
- ・ キャリアカウンセリング機能のついたe-LearningシステムWiztrack 他

(3) 進め方

- ・ 開催回数： 年2回
- ・ 開催時期： ・ 第1回会合： 9月5日(東京)
・ 第2回会合：[合同分科会の分科会セッション]

1.3 科学技術計算分科会

(1) 活動方針

近年、科学技術計算分野のコンピュータ技術は、言うまでもなく急速な進展を遂げており、利用者の期待も高まるどころである。会員機関でも、従来のベクトル並列機、汎用機等のシステムに加え、大規模スカラ並列機、PCクラスタといった最新システムの導入例が多く見られ、その傾向は今後さらに拡大されると思われる。

本分科会では、会員機関が必要とするであろう、これらの多様化した環境における利用技術、特に可視化技術の最新動向と最新のサーバについて、その運用、性能の両面から議論を深め、現状の問題解決と将来の方向性について検討する。

(2) 活動内容

第1回：「変わりゆく可視化技術」

並列化技術の適用により、大規模な可視化や、高度な可視化(VR,立体視等)が実現されつつある。また、これらをPCクラスタを利用して比較的安価に行う試みも行われている。第1回会合ではこれら最新の可視化技術の動向をメインテーマとして、同時に最新のスカラサーバの状況について議論する企画を検討する。

< 発表候補 >

- 1) 可視化チュートリアル (分散可視化を含む)
- 2) クラスタ版AVS
- 3) 富士通製品紹介：Vislink (会員事例含む)
- 4) HPC2500のその後
 - 4-1) 会員事例(性能報告)
 - 4-2) 富士通からの補足

第2回：HPC2500特集」

会員間で導入が進みつつあるスカラ計算機について、各社の最新のMPU、システムの動向から、PRIMEPOWER HPC2500の実性能まで、幅広くかつ実質的な議論を行える企画を検討する。

<発表候補>

- 1) マイクロプロセッサの動向(他社比較)
- 2) HPC2500性能(会員事例：2件)
- 3) 分科会懇談会 テーマ：「本音でしゃべるグリッド」(コーディネータ:姫野企画委員)

(3) 進め方

- ・開催回数： 年2回
- ・開催時期：
 - ・第1回会合： 8月22日(東京)
 - ・第2回会合：[合同分科会の分科会セッション]

1.4 合同分科会

(1) 活動方針

会員が一堂に会する機会を捉え、昨年に引き続き、今後の科学技術分野での情報システムの方向性を模索できる共通性のあるメインテーマを選定し、情報交換が活発に行われる活動を目指す。今年度のメインテーマは、「グリッドコンピューティングを考える」とし、新たなコンピューティング環境における情報通信技術について、アプリケーション面から討議、情報交換を行う。

(2) 活動内容

メインテーマ：「**グリッドコンピューティングを考える**」

具体的な内容：

<討論会セッション>

- ・話題提供：討論会テーマに関する話題提供を行い、次の「討論会」につなげる。話題提供者候補には、グリッドコンピューティングの利用者を中心に今後検討する。
- ・討論会：メインテーマに係わる具体的な討論会テーマを設定し、話題提供者間、及び会場との討論を実施する。
 - <テーマ候補> 「グリッドへの期待」

<全体セッション>

- ・会長挨拶
- ・特別講演：最先端分野のトピックス的な報告とし、今後検討する。
- ・一般報告：会員、富士通からの報告とし、以下の候補を含め、今後検討する。
 - <候補> ・NAREGI
 - ・e-Learning
 - ・VizGrid
 - ・データゼポータル
 - ・ハイパフォーマンス
- ・特別報告：メインテーマに係わる富士通からのメッセージ(テーマ未定、富士通役員)
- ・WG報告：今年度の新規WGを中心にチュートリアル的な報告を実施する。
- ・文化講演：より幅の広い知識の吸収するため、コンピュータとは異分野の文化講演を実施する。以下の候補を含め、今後検討する。

- <候補> ・科学系
 - 保険学博士 菅原明子氏
- ・芸能・スポーツ系
 - 吉本興業 大谷由里子氏
 - NHK キャスター 小平アネット佳子氏
- ・ビジネス系
 - 弁護士 大平光代氏
 - 株式会社・レキシコ・サイエンス社長 土居洋文氏
- ・宗教系
 - 薬師寺住職 安田暎胤氏

- ・懇親会：意見交換や問題解決の議論をより深めるために実施する。

<分科会セッション>

- ・分科会シリアルセッション：システム技術分科会第2回会合を実施する。
- ・分科会パラレルセッション：研究教育環境分科会、科学技術計算分科会の第2回会合をパラレルで実施する。
- ・分科会懇談会：各分科会に分かれ、それぞれのテーマで参加者による検討会を行う。

(3) 進め方

- ・開催回数： 年1回
- ・開催時期： 10月29日(水)～10月31日(金)

2. SS 研HPCフォーラム **新設**

HPC の普及は目ざましく、HPC 利用者のニーズは益々多様、複雑化している。それに伴い HPC を介したセンタ管理者と HPC 利用者との情報交換は、従来にも増して必要な状況となっている。

そこで、HPC フォーラムでは、今迄の HPC ミーティングを HPC フォーラムに名称を改め、SS 研会員を中心に HPC 利用者に参加を募り、HPC アプリを中心にした IT ソリューション活動を推進して行く。

(1) 活動方針

超高速で大規模シミュレーションのためのスーパーコンピュータの開発、特定のアルゴリズムのための専用計算機の開発、パーソナルコンピュータの著しい性能向上、グリッドコンピューティングの可能性等、ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)を取り巻く計算環境は多様化しつつある。一方、ソフトウェア、計算モデルの観点からもマイクロ現象とマクロ現象を接続するマルチスケールモデリング、異なる物理法則を接続するマルチフィジックスモデリング、いままでは HPC の対象とはならなかった金融、交通、災害等の複雑な現象のモデリング等の発展により、大規模数値シミュレーション技術、可視化技術等を通じてリアルに現象を再現することが行われつつある。

今回は HPC フォーラムとして、この様に多面的に変化する HPC 計算環境を見据えて、今後の HPC アプリケーションの新たな方向性を探ることを目指して議論する。

(2) 活動内容

メインテーマ： **「HPC アプリの新たな領域」**

具体的な内容：

- ・招待講演（候補）
 - ・第一候補) HPC 全般 --- Dr. Horst Simon, NERSC, Lawrence Berkeley National Laboratory
 - ・第二候補) 創薬 --- Dr. Pang, Mayo Clinic, Minnesota
 - ・第三候補) 天文物理 --- Dr. Piet Hut, IAS Princeton
- ・一般講演（候補）
 - ・マルチスケール(メソマクロ) --- 増淵先生(名古屋大学)
 - ・細胞シミュレーション --- 富田先生(慶応大)
 - ・金融物理 --- 高安氏(ソニー)
 - ・天文シミュレーション --- 国立天文台
 - ・交通シミュレーション
 - ・災害シミュレーション
- ・富士通報告(候補)：
 - ・CAD-Grid

(3) 進め方

- ・開催回数： 年1回
- ・開催時期： 10月3日（東京）

3. ワーキンググループ (WG)

WG は、会員、富士通相互に関心のあるテーマを取り上げ、調査・検討し、問題点/課題の整理及び対応策の取りまとめ等の活動を行う。

WG の開設は、分科会の企画会議、フォロー・アップ、あるいは技術動向等に応じ、分科会の企画委員を中心に行う。その活動の内容・成果は関連分科会に適宜報告する。

3.1 SMPクラスタWG

(1) 活動方針

HPC分野の計算エンジンとなるスーパーコンピュータは従来、ベクトル型アーキテクチャによって実現されてきたが、半導体技術の進歩は目覚ましく、SMP (Symmetric Multi-Processor) を要素とする分散主記憶型の並列計算機がそれに代わろうとしている。このような背景から、『スカラ並列技術WG』では、会員プログラムをベースに、各種分野において、SMP計算機で高い並

列処理効率を得るためのプログラミング技術、チューニング技術の検討・評価を2年間にわたって行ってきた。これについては、多くの成果を達成した。成果については、報告書等で会員にも公開している。

一方で、プログラミング技術、チューニング技術の評価が進むに従い、単なる評価にとどまらない、アプリケーションとSMP構成（大規模SMP / クラスタ構成）の親和性等、SMP利用指針検討の必要性が台頭してきた。

当WGは、このような利用指針の検討、実プログラムの評価を更に進め、HPC分野でのSMP計算機利用に向けて、利用技術（プログラミング技術、チューニング技術）、利用指針の明確化・共有化を図るとともに、今後の課題を明確にする。

H14年度は、3回の会合を通じて、アプリ紹介、SMPマシン特性の検討、チューニングガイド改訂の検討を行なうとともに、H13年度までの評価アプリの富士通の新機種による評価検討を行った。

H15年度は、新規アプリを含めて、SMP内並列とクラスタ並列の評価を通じて、課題の検討を進める。また、会合回数の増加などを検討し、H14年度の遅れを取り戻す。

(2) 活動内容

- 1)実プログラム評価の推進（並列化手法の評価、対象アプリの拡大等）
- 2)チューニングガイド（『スカラ並列技術WG』の成果物）の評価、充実
- 3)チューニングツールの評価
- 4)SMP 導入・利用指針の検討

(3) 進め方

- ・開催回数： 年 5 回程度
- ・活動期間： 2 年程度(H14-H15)

3.2 Grid Computing WG

(1)活動方針(案)

高速ネットワークを介して、パソコンから高性能コンピュータ，大容量データセンター，可視化装置，観測装置等を連携させ、計算資源の共有，データの共有，人的資源の共有を図り、スーパーコンピュータの計算能力を実現しようという Grid Computingが、近年注目を集めている。

会員間でも、スーパーSINET，ITBL，VizGridの運用開始や、NAREGIプロジェクトの発足等に伴い、Grid Computingに対する関心がますます高まり、会員それぞれがGrid Computingの活用方法について模索し始めている。

SS研では、これらを背景に、平成14年度より「Grid Computing WG」を開設、会員機関でのGrid Computing環境の構築・利用に向けての必要項目を検討し、要求事項および課題を絞り込むとともに、各会員へのノウハウの共有化を図った。

平成15年度は、Grid Computingを適用するメリットを明確にしたいという会員の強い声に応え、「Grid適用分野の研究」を目的に、最新事例の紹介と評価を行う。また、その一環として、UNICOREの構築と評価も行う。これらにより、会員間のGrid Computing活用における課題の明確化と解決を図る。

(2)活動内容(案)

・「Grid適用分野の研究」を目的に事例紹介を行い、会員との情報交換も踏まえメリットを整理し評価する。

・事例紹介は、WG内には閉じず、SS研会員なら誰でも参加可能な会合形式をとる。

・とりあげる事例には、以下が候補に挙げられる。

(1)Globus(GT2)事例 Japan Virtual Observatory (国立天文台)

(2)CPU Scavenging事例 CAD-Grid (富士通)

・また、会員間のGrid構築における研究活動の一環として、サイエンスGrid・UNICOREの構築と評価も行う。(WG内に閉じた活動)

・事例の紹介と評価、および UNICOREの構築と評価の結果は、WGの成果として報告書にまとめる。

(3) 進め方(案)

- ・開催回数： 年 4 回程度
- ・活動期間： 2 年程度(H14-H15)

3.3 ストレージを中心としたシステムマネジメントWG 新設

(1) 活動方針

情報処理の大規模化およびマルチメディア化に伴い扱うデータ量は、益々増大の傾向にあり、また、ファイバーチャネルの普及や LAN の速度向上などの基盤技術の進歩により、ネットワークを活用したストレージシステムである SAN(Storage Area Network)および NAS(Network Attached Storage)が注目されている。そのような環境の中、ストレージシステムは、計算サーバシステム、ネットワークシステムなどの付属システムではなく、データを一元的に処理する重要なシステムとなっている。

このような背景から、『ネットワーク時代の統合ストレージマネジメント WG』では、SAN/NAS の技術動向とその融合した形態を調査検討し、その結果として、会員の機関をベースに研究所モデル 2 件/大学モデル 2 件を、作成し評価してきた。成果については、成果報告書としてまとめ、公開可能としている。

今までの活動では、ハードウェア技術の進歩に焦点を当て、SAN/NAS を利用したシステムの評価を実施した。一方、高可用性、運用管理、バックアップ、データ共有、ストレージの仮想化など、運用性向上を目指す「ストレージマネジメント」に関しては、更に深く掘り下げた議論が必要であるという声が強まっている。

そこで、当 WG では、会員機関において要求される、管理ポリシー・セキュリティ・仮想化などのキーワードを含め、システム全体の問題点を再確認し、ハードウェア/ソフトウェアを含めたストレージシステムが何を考慮しなければならないか、システム全体として何が問題かなどを議論し、その課題の洗い出しを行い、要求事項/留意事項の明確化とその対応策を検討する。

(2) 活動内容

本 WG 活動の具体的な検討内容は、以下を想定している。

- (1) ストレージシステムに要求される管理ポリシー、セキュリティ項目とその問題点の洗い出しを実施し、分類整理する
- (2) ストレージシステムとして解決できることと、システム全体で捉えることの整理
- (3) ストレージシステムとしての解決策の検討と評価の実施
- (4) システム全体としての課題と対策の検討

(3) 進め方

- ・開催回数：年 4 回程度
- ・活動期間：2 年程度(H15-H16)

3.4 PCクラスタの高度利用WG 新設

(1) 活動方針

PC クラスタはコストパフォーマンスが非常に良い為、研究者が中心となって導入を図って来た。しかしながら、導入に際しては CPU やネットワークなど選択肢が多く、適切な選択を行わないと十分な効果が上げられないという問題点があった。そこでこれまでの「PC クラスタ WG」では種々のハードウェアの特性について調査を行って特性をまとめ、詳細な知識を持たないユーザーでも適切なシステムが導入できるように報告書を公開予定である。

このような活動などで PC クラスタの効果は広く知られるところとなってきたが、最近新たな動きも見られる。一つは AMD のインテル互換 CPU (Opteron) や PCI-X、InfiniBand などの新たなハードウェア、二つ目はグラフィックスなどこれまで使われなかった分野への利用、三つ目は XPFortran や Datafarm などのようにコンパイラや GRID 技術を使い、ソフトウェア的にユーザーから見たときに使い勝手や性能を向上させる技術の登場である。

このような新しいトレンドの調査と、その会員への報告・普及を目指して、本 WG は活動を行う。

(2) 活動内容

- 1) 新たなハードウェアの到来とその PC クラスタにおける価値
 - ・AMD の Opteron などの新たな CPU や PCI-X
 - ・InfiniBand と MyrinetXP、10 G Ethernet などのネットワーク
- 2) グラフィックス処理・音響処理などの新応用分野
 - ・グラフィックス処理の並列化技術
 - ・音響処理の並列化技術
- 3) 高度利用ソフトウェア
 - ・XPFortran

・GRID 技術

4) 高度利用システムにおける標準化仕様の適用分野とその技術

・クラスタ間共有ファイルの創成、参照、更新技術

(3) 進め方

開催回数： 年 4 回程度

活動期間： 2 年程度(H15-H16)

3.5 Linux 版運用支援システムWG **新設**

(1)活動方針

授業や学生の自学自習用に、大規模台数の教育用 PC を教室に設置し、Windows と Linux の Dual Boot 環境を構築している大学が近年、増加している。大学の授業で使う大規模 PC 教室では、その授業に合わせた教材/ソフトの資源配布や、日々の運用の省力化（自動化）、そしてトラブルが発生した場合のリカバリーの 3 つの機能が要求される。Windows については、セルフメンテナンスをを用いることにより、事細かな自動化対応をしているが、Linux については、運用管理者が手作業で対応しているのが実情である。

その一方で、大規模台数の PC を導入しているにも関わらず、運用・管理コストの削減が思うように進んでいない。これは上記の Linux の運用管理の省力化が進んでいないことと一致するところもある。運用管理者からは、大学での運用上、いたずら等、セキュリティの点から、Windows でのセルフメンテナンスと同等のものが要望されている。

そこで、本 WG では、大学の大規模 PC 教室にある Dual Boot 環境での Linux システムについて、資源配布、省力化（自動化）、リカバリーの 3 機能を柱とした Linux 版のセルフメンテナンスについての検討を目的として活動する。今年度は、特に資源配布について先行検討し、プロトタイプを作成とその評価を実施する。

(2)活動内容

- ・大規模 PC 教室の Dual Boot 環境 Linux システムでの機能要件抽出と整理
- ・資源配布機能の Linux 版セルフメンテナンスのプロトタイプ作成
- ・プロトタイプの評価

(3)進め方

開催回数： 年 4 回程度

活動期間： 2 年程度(H15-H16)

3.6 e- Learningコンテンツ生成WG **新設**

(1)活動方針

近年、e-Learning の学習者は Web ブラウザが動作する環境であれば、誰でもホームページを見る感覚で手軽に学習できるようになった。また、e-Learning の標準化が進むとともに、いろいろな分野の教材コンテンツが作成され、大学や企業の教育で多く使われている。

一方、多くの大学で、学生向けサービスに個々の学生に最適な難易度の教材コンテンツを提供する e-Learning システムの検討が始まっている。その中で、現状で使用している自分の教材や他の先生の教材を再利用するといった教育資源共有について強い要望がでてきている。

その背景には教材コンテンツを作成する先生の負荷が未だに軽減しない実情がある。その有効な解決策のひとつとして、教材コンテンツの自動生成があるが、教材コンテンツをどのように部品化していくか、また教材部品を使ってどのように教材コンテンツを自動生成するかなどの技術的な課題も多い。

本 WG では教材コンテンツ自動生成に関する仕組み実現に向けての必要事項の検討を行い、その必要要件および課題を明確化するとともに、各会員へのノウハウの共有化を図る。

(2)活動内容

- 1)会員必要機能の要件検討
- 2)利用技術の検討
- 3)課題・対策の検討と取りまとめ

(3)進め方

開催回数： 年 4 回程度

活動期間： 1 年程度(H15)

4.委員会

委員会は、SS研活動を支援するために必要な事項について検討する。

4.1 ニュースレター編集委員会

(1)活動方針

ニュースレター（会報）の内容の充実/早期発行、ホームページ上での見やすさ/使い勝手の向上、および年1回のCD-ROM発行、「ニュースレター選集」の発行に向け、活動を推進する。

(2)活動内容

- ニュースレターの内容充実/早期公開に向けての検討
- ホームページ上の見やすさ/使い勝手向上に向けての検討
- 「ニュースレター選集」発行に向けての検討
- ニュースレターCD-ROM版の編集方針の確認
- その他

(3)進め方

ニュースレター全体に関わる事項は、年に1~2回の会合を開催し検討する。各分科会のニュースレター発行に関わる原稿レビューなどは、その都度紙およびメールで行う。

4.2 セキュリティガイド委員会

(1)活動方針

従来、会員所属機関でのクラッカー等によるアタックの事例が度々露見され、その猛威は衰えることなく依然と続いている。

これに対する確実な管理手段や対応方法などの整理が必要とされ、平成11年度より「ネットワークセキュリティWG」を開設、Solarisでのネットワークサーバの構築/運用のノウハウを「セキュリティガイド」としてまとめ、公開した。

整理した情報の範囲は、サーバ管理者の一通りのノウハウを網羅しており、セキュリティガイドは発行当時より、利用者より高い支持を得てきた。

引き続き継続的な情報の公開が会員全体にとって有益と考え、平成14年度に引き続き、セキュリティガイドの更新活動を行う。

(2)活動内容

セキュリティガイドでは、主に以下の情報に関して、タイムリーな更新を目指す。

- ネットワークサーバの構築/運用技術
- ネットワークの構築/運営技術
(Firewall および IDS などを含む)
- 組織のあるべき体制
- その他、チェックリスト, Firewall設定資料, inetd.conf設定資料、ソフトのインストール手引などの各種資料

なお、セキュリティガイドの公開は、SS研ホームページを活用する。

(3)進め方

メーリングリストを中心にして、年に1~2回の更新を目指した活動を実施する。

必要であれば、年に2回程度の会合を開催する。

4.3 SS研ユーティ推進委員会

(1)活動方針

会員間の情報流通のためにSS研ホームページで運営している「SS研ユーティ」は、これまでの活動でそのしくみ作りはほぼ完了している。今年度は、実際のユーティ（プログラムやドキュメント）の件数・品質の両面での充実を中心に活動する。

また、ユーティに対するニーズ調査/検討を行い、必要に応じて、ユーティの作成までを視野に入れた活動を行う。

なお、平成 14 年度は広報委員会の中のサブグループとして活動してきたが、広報委員会の終了に伴い、単独の委員会として活動する。

(2)活動内容

- ・ ユーティ登録および利用の活性化のための施策検討と対応
- ・ ユーティのニーズの調査/検討と、必要に応じたユーティの作成

(4)活動の進め方

必要に応じて年 2 回程度の会合を開催する。

4.4 広報委員会 終了》

広報委員会は、平成 14 年度で終了とする。

会員の参加促進 / 活用促進に向けた広報委員会の機能については、今後は以下のとおりとする。

(1)SS 研の広報に関する検討

幹事会あるいは企画・運営委員会で検討

(2)電子化情報システム規定 / セキュリティ・ポリシー等の維持 / 改訂

事務局で対応

(3)SS 研ユーティ活動規約の維持 / 改訂およびユーティ登録および利用の活性化

SS 研ユーティ推進委員会